

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700277		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホーム そよかぜ		
所在地	宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田1-11		
自己評価作成日	平成21年8月17日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>高齢化が進み、機能低下に伴い活動力も低下している現状のなか、余暇活動の充実、リハビリを行い機能維持を図っています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成21年9月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームは、社会福祉法人永楽会が運営する県内33箇所の介護福祉施設の1つである。富谷町から提供された「とうみやの杜」に位置し、特養ホームや心身障害者通所施設などが隣接している。「とうみやの杜」の周辺には民家が乏しく、閑静な場所である。その分日常的な地域社会との交流が難しいが、入居者を含む「そよかぜの住民」が町主催の総合防災訓練に参加し、相互の協力支援体制が確立している。また、春秋の交通安全週間には児童生徒の登校時に交通誘導に当たり、児童生徒はもとより、広く住民から感謝されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2. 自己評価および外部評価結果（詳細）

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めにケア会議で話をして理念を理解し、支援するよう心掛けている	このホームには、すべての職員が参加して改訂した独自の理念があり、日々の実践につなげているが、その内容には「地域生活の継続と地域社会との関係の強化」が、鮮明に盛り込まれていない。	地域密着型サービスとしての意義をふまえ、「地域生活の継続と地域社会との関係の強化」を念頭に置いた理念に改訂するように、さらに努力をされたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、春、秋の交通安全街頭、町の避難訓練等に参加し地域との交流が持てるようにしている	このホームは、町内会に加入している。入居者を含む「そよかぜの住民」が、「どうみやの杜」の夏祭や、春秋の交通安全運動、町主催の総合防災訓練などに参加し、ボランティアが訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を持ち、利用者の状況、取組の話し合いをし、意見をもらっている	会議は2か月に1回の頻度で開催し、ホームからの事業の報告や施策の提起と、参加者からの意見や要望の聴取により、双方向的に運営し、かつ参加者からの意見などをサービスの向上に活かしている。	この1年間に6回の会議を開催しているが、町職員が参加した会議は1回だけなので、少なくとも年に4回は参加してもらえるように、強力に働きかけていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告書、推進会議、電話での状況報告をしているが、電話での報告の記録はしていない	町の担当者には、グループホームへの理解と支援を要請し、必要の都度電話や訪問により話し合いや相談の機会を持ち、事故報告や運営推進会議の議事録を送付している。高校生の介護実習を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当時から身体拘束は行っていない。個々の状況に応じて拘束をしない支援を工夫している	このホームは開設当初から入居者の身体拘束を行っていないし、日中は居室や玄関にかぎを掛けていない。職員はそれぞれの入居者の外出の癖をつかんで対応し、隣接施設にも協力を要請している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等には参加していないが、虐待はしていない、してはいけない気持ちを常に持ち支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護についての勉強会等に参加し理解を深め、スタッフへの意識を持ったもらうように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を十分に行い理解してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に話を聞き、運営に反映させるようにしている	入居者やその家族には、ホームに係わる意見や要望などを述べる手立てと機会がある。苦情解決に係わる規程を設け、ホームの運営やサービスの向上に活かしている。第三者委員を委嘱している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議等で職員の意見を取り入れ反映するように努めている	職員の意見などを毎月開催するケア会議で聞き、ホームの運営やサービスの向上に活かしている。運営者はそれぞれの職員の勤務状況を把握し、やりがいと向上心を持って働けるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を考慮したうえで、その能力が発揮できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のGH交換研修を行ったり研修会の機会を設け、育てる努力をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGH交換研修を行い、サービスの向上やケアの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が何を求めているのか、何をしたいのかをじっくり聞き、安心できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意向や相談事があった際は、じっくり話を聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から何を求めているのかを見極め、サービスに活かせるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物を干したり、一緒に行い、生活を共にしている事を感じてもらうように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	墓参り等外出、電話で話ができるような環境をつくり、互いに支え合う関係に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋に出かけている。、また知人が気軽に訪問できるような環境づくりに努めている	職員は入居者のなじみの人々やなじみの場所などを把握し、それらとの関係が途切れないように支援している。また、なじみの人々が気軽に訪問できるような環境を作るように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にのったり、気軽に訪問できるような環境づくりに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者主体の支援に努めているが、困難な場合には家族と相談している	職員は本人が入居する前に必ず家庭を訪問して「実態調査」を実施し、本人の生活歴や、本人とその家族の希望や意向を把握している。また、入居後もそれを継続し、常に「振り返り」を行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の記録を作成しに日々の状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意向を確認し計画を作成している	「実態調査」の結果をもとに、本人の介護に係わって来たホーム以外の関係者の意見も取り入れて、本人本位の介護計画を作成している。介護計画は定期的には6か月ごとに見直している。	介護計画は、定期的には3か月ごとに(必要なときには臨機応変に)見直し、1か月ごとにモニタリングを行なっていただきたい。(管理者は努力すると意思表示している)。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活の記録を作成しに日々の状況把握し活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調等変化で対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	床屋や買い物等に出かけ楽しみを持てるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じ主治医と相談している	このホームは「入居者の主治の医師との連携を基本」に、必要な他の医師や医療関係と親密な関係を築き、本人やその家族が希望するところで受診ができるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時、処置等、特養の看護師に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、入院中の状況伺いし、状況の経過を聞き取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と面談し、家族も交え今後について話し合いを行っている	このホームは入居者の「最期の看取り」に係る介護方針を統一的に成文化していない。しかし、そのような状態に近い入居者がいるので、家族や医療関係者と話し合っ、誤りのないように対応している。	「入居者の『最期の看取り』に係る介護方針の成文化を検討している」としているため、その完成を期待する。同時に入居者本人及びその家族への十分な説明と同意の取り組みを要請する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急講習を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、町の避難訓練にも利用者と共に参加している	緊急時対応(災害対策)マニュアルを作成し、避難訓練(夜間想定を含む)を年に2回実施している。町主催の総合防災訓練に地域住民とともに参加し、非常時の避難場所としてこのホームを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声掛けや支援をしている	職員は入居者本人を尊重して呼び掛け、本人の了解を得て、居室に出入りしている。職員の言葉、態度、関わり方がきつくも早くもなく、入居者はのびのびとし、スピーチロックは見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志が表せるような声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるよう支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している	職員は入居者の力を活かしながら、一緒に買い物、調理、食卓の準備と後片付けなどを行なっている。食事には旬のもの、新鮮なもの、入居者の嗜好を取り入れ、3か月に1回は管理栄養士の助言を受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、必要に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時の口腔ケアの支援をしている。一人で出来る方には、声掛けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し排泄支援を行っている	排せつ点検表などを利用して、入居者の排せつの仕方を把握している。個別に適切な排せつ誘導を行い、トイレで排せつできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心とした食事と、下剤の調整している方と個々に応じて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の意向を聞き取り入浴をしている	職員は入居者のこれまでの生活習慣や好みに合わせて、毎日でも入浴できるように支援している。入浴を嫌がる人に対しては、対応の仕方を工夫し、入浴に導いている。浴室には「二人介護」の広さがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ昼寝をしたり、夜間は睡眠の妨げにならないように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止をあり一人ずつ名前の確認をして服薬支援をしており、症状の変化は常に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備の手伝いや、個別に外出したり役割等もてるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定義山参拝、地域の祭りに出かけたりしている。家族やボランティアさんの協力をもっている	入居者が日常的になじみの店や場所に、あるいは外食や買い物、散歩などに(歩行に困難がある場合には、車や車いすなどを利用して)出掛けられるように支援している。季節ごとの外出行事がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額ではないが手持ちで持っている。なくしてしまう方は家族より預かり使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるような場所においている。年賀状を出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や植物を多くし、絵を飾ったり家庭的な暖かみを工夫している	屋内の共用空間は入居者にとって利用しやすく造作し、なじみの物や使い慣れた物を置いている。照明や日差しがまぶしかったり、暗かったりしていないし、保温と換気が適切に行なわれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所が数箇所あり、気の合う方が話し込んだり居眠りをしたりしている。また、家族の面会時にはお茶を楽しまれている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と協力を得て、仏壇やタンスを持ち込み安心できる自室になっている。	家族には、本人のなじみの物や使い慣れたものを持ってきてもらえるように働きかけている。プライバシーを保護しながら、仏壇やたんすを持ち込んで、心地よく安心して過ごせるような居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	各所に手摺りを設置、自室入口には表札を掲げている		